

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 2月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0773100599		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム正寿苑		
所在地	〒963-4317 福島県田村市船引町東部台3丁目47番地 (電話) 0247-81-1711		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成21年1月16日	評価確定日	平成21年3月5日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	13人	常勤	12人, 非常勤 1人, 常勤換算 11.75人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	12,000円(4月~10月) 15,000円(11月~3月)
敷金	有()円 ● 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	● 有(19,950円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	14名	男性	6名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 79.8歳	最低	60歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大方病院・さいす歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道に面して建てられた2ユニットのグループホームである。近隣にはペットショップや病院があり、新興住宅地となっている。嚥下体操目的で始めた合唱は、何度と無く歌われ手拍子やかけ声が聞かれた。職員は、理念である笑顔で優しく思いやる支援を実現するために取り組んでおり、利用者もゆったりと落ち着いて過している。運営推進会議では、地域の方々の協力が得られ消防団OBによる「後援隊」が組織化され、火災や災害時の協力体制の整備が行われている。回覧を回して事業所の特徴などを紹介し、地域に理解をしてもらえるよう努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 支援の経過がケース記録に記載されておらず十分でなかったことを受け、援助内容に沿った記録となっていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が担当を決めて取り組み、管理者が会議で総括してまとめた。緊急時の対応について、管理者は職員の不安の思いを受けて、心肺蘇生の研修を受けさせるなど、改善に向けた取り組みもされていた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は定期的に行われ、特に火災発生時の対応についての検討がされた。地域の方々の協力で、昨年12月に消防団OBによる「後援隊」が設置された。介護保険に関する質問や、外部評価報告、事故報告などされ、提案や協力が得られている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時は、管理者が対応し、意見や苦情・不安の聞き取りをしている。運営推進会議でも家族から意見が述べられている。光熱費の値上げの際は、苦情や不満があり、ご理解いただくまで話し合いがもたれていた。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会へ入り、地域の行事に参加したり、事業所の行事へのお誘いをするなどして相互協力体制と連携ができています。特に火災については事業所同様地域の方々も心配され協力の理解も見受けられた。幼稚園児のボランティア訪問は、利用者の心を癒す機会となっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に事業所独自の理念となっている。全職員で協議し、〈笑顔で優しく思いやる支援〉と、〈地域の人々と支え合い充実した生活を送る支援〉とすることで、地域の方々の交流を大切にしたい理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の引継ぎの為のミーティングの時間に全員で理念を唱和し、理念の共有と実践に向けた日々の取り組みを継続している		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人クラブの活動に参加したり、地域の行事に参加している。また、年に4回事業所では、地元の方々を招いて交流を行う行事を催して。また、幼稚園児の訪問を受けて、涙を流したりする場面があったり傾聴ボランティア等の訪問を受けたりと、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は外部評価の意義を理解し、今回の自己評価は、職員が分担して評価を行い、会議で、読み上げながら項目ごとに全職員で検討した。評価の過程で緊急時の不安などが上げられ、心肺蘇生などの勉強を行い改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月に1回行われている。火災が起こった場合の避難については、毎回のように話し合いがされ、消防団OBの方々の協力を得ることができた。また、認知症や事業所の特性を知らない方がいると報告があり、回覧板を回して理解を深めてもらえるよう努めていた。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、定期的に金銭管理や体調などについての報告がされ、職員の手書きのお手紙が添えられ、状況の報告がされている。また、受診や事故の報告などは、その都度電話で報告し、来訪の際は管理者が会って報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、来訪の際、管理者が積極的に聞き取るように努めている。光熱費の値上げでは多くの意見が出され、家族との話し合いがされていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職については、利用者へのダメージに配慮し最小限に抑えられるよう努めている。離職があった場合は、顔を覚えてもらうために、洗濯や掃除の仕事から始め、覚えてもらった頃にベテランの職員とペアで介護に入るようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は新人研修は受けている。働きながらベテランの職員に日常的に学んでいる。しかし、法人内外の研修を受ける機会の確保ができていないのは残念である。管理者はこの事を踏まえて福島県認知症グループホーム連絡協議会に入会し機会の確保に努めていたが実施に至っていない。	○	段階に応じた研修計画の作成と実施が必要である。また、職員が希望した研修会への参加ができるよう、職員配置も検討して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人の中で交流されている。管理者はサービスの質の向上のため、法人外の同業者との交流が必要と考え、福島県認知症グループホーム連絡協議会に入会した。	○	今後は同業者と積極的に交流し、サービスの質の向上に取り組んでほしい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護される一方の立場におかず、高齢者の豊富な経験や生活の知恵などを教えてもらい、季節の決まり事や飾り物などを学びながら一緒に過ごしている。また、昔の歌や民謡などをならい、お互いが笑顔で暮らせるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いについては、計画変更時に本人や家族から聞き取り、毎日の暮らしについての意向は、朝10時のおやつの際に、体調や希望に合わせて、入浴や散歩・過ごし方などの希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は本人や家族と話し合いを行い、必要に応じて医師などの専門職の意見を聞き、職員の意見も取り入れ介護計画を作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しが行われている。計画には番号がつけられ項目毎に記録している。定期的なモニタリング以外にも期間にとらわれず、変化に応じて見直しをしている。日々気づいたことを報告し、その状態変化に応じて関係者と話し合い、随時見直しの会議がもたれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望でほぼ全員入居前からの馴染みのかかりつけ医の診療を受けている。利用者の受診は職員が付き添って支援を行っている。診察の結果はその都度、家族に電話等で報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のありかたについて、家族の意思確認書を作成し、説明と同意を得ている。又、重度化と終末期の対応指針も家族等の確認を得ている。これらの内容は全職員が共有している。緊急時の入院先は前もって決めており、随時医師と連携し家族と話し合いながら支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、全職員は利用者の一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、対応している。また利用者等に「個人情報利用同意書」について説明し、同意を得ている。グループホームだよりへの利用者の写真の掲載についても、本人・家族の承認を得ていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやその日に本人がしたいと思っていることを大切にして、利用者の体調や思いに配慮しながら、支援され、思い思いにのんびりと過されている。食事、買い物、外出、入浴等利用者の希望を取り入れ支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が会話を楽しみながら、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しんでいる。食事前の嚥下体操は利用者の趣味を兼ねて、民謡、童謡、歌謡曲の合唱が笑顔で大声で行われている。メニューやカロリー計算等は栄養士のアドバイスを受けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回を原則としているが本人の希望に沿った入浴の支援ができる様にしている。拒否されたり気分が乗らず入浴できないときは、清拭に切り替えたり翌日に入浴してもらったりと柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の生活歴や能力を活かし、プランターで野菜の栽培や敷地内の草むしり・季節ごとの種の植え付けや収穫・洗濯物たたみや・野菜のヘタ取りなどの役割を持ってもらっている。職員はその都度感謝の意を伝え、楽しみながら生活できるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	毎月一回、季節の風景を楽しめるように計画し、花見・芝桜見学・芋煮会・白鳥見学など、事業所全体で取り組める行事を実施している。その他、日常的には利用者の希望に沿った散歩、買い物、ドライブなどの支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯の為に施錠のみで、日中は鍵を掛けていない。利用者が外出しそうな時は、止めるのではなく、声かけをして付き添うなど自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回(4月、10月)避難訓練を消防署立会いで実施しているが、昨年はその他に1回、夜間を想定した訓練を行っている。更に、昨年の12月に近隣の消防団OBによる災害救援組織の「後援隊」が結成されている。又、災害時の備蓄もされていた。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は毎日「生活チェック表」に記録されており全職員が内容を共有している。栄養のバランスは毎食毎に栄養士の支援を受けた食事の提供をしている。一人ひとりの状態に応じて、刻み食なども用意されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の居間、食堂、廊下等は、広々としたスペースとなっており、居間はコタツのある畳のスペース、大きなソファが置かれているフロアリングのスペースと、利用者がゆったりと過ごせる空間となっている。窓は採光に気を配り、ブラインドが取り付けられている。壁などの装飾は度が過ぎないように配慮しながらすっきりとした季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は利用者の希望により、畳の部屋もあり、テレビ、ベッド、タンスや椅子と好みの物を持ち込み、壁には好みの写真など飾り、思い思いに安心して過せる居室となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム正寿苑

記入担当者名 吉田 正三

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。